

集落の姿を再現し、記録に残そう ～City Engine を活用した町内案内 第2回～

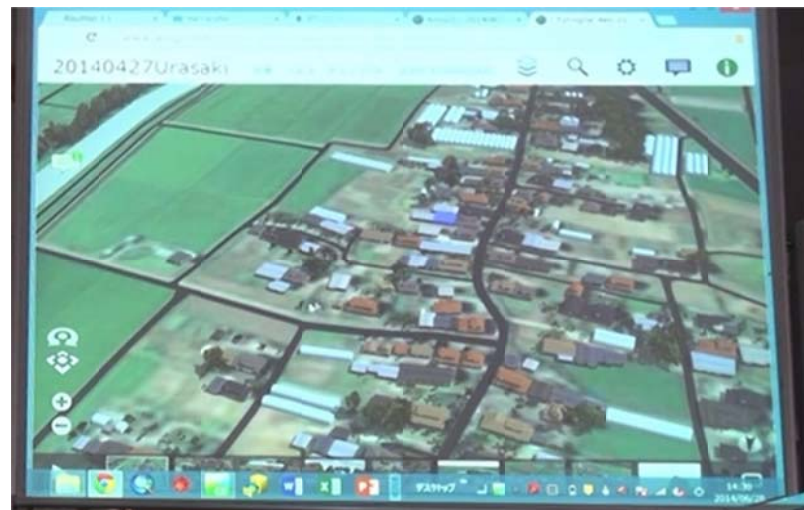
2014年6月28日、岩沼市仮設住宅東集会所において、復興まちづくりワークショップが行われました。今回も、前回（4月27日）に引き続き、筑波大学の村上先生と首都大学東京の熊倉先生から、最先端のソフトである City Engine（シティエンジン）の紹介が行われました。City Engine では、画面上でまちの姿を立体的に再現して、いろいろな角度から見るすることができます。今回は、より詳細に、岩沼市沿岸集落のかつての姿を、再現していただきました。

今回は、長谷釜集落の住民の方に、プロジェクターで映した City Engine の画像に合わせて、町内案内の実演をしていただきました。今回も、再現された町内の様子を見ながら、蒲崎集落と相野釜集落の住民の方に、町内案内の実演をしていただきました。

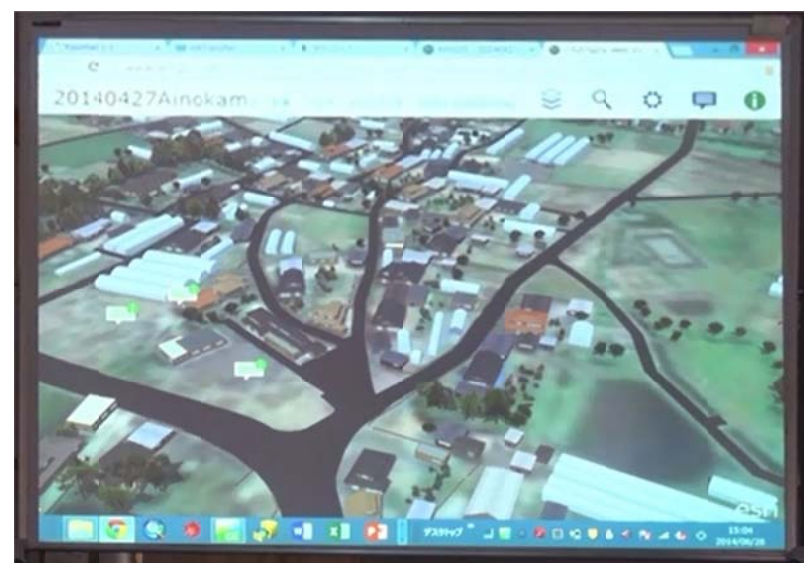
蒲崎集落の町内案内では、北側の道から集落に入ると、お寺とお墓があり、道を進むと、公会堂があったことから始まり、ご自宅のユズの木、お祭りをした神社、小学4年生まで通った分校、貞山堀の向こうにあったとても大きな松のことなどを紹介していただきました。

相野釜集落の町内案内では、町内にビニールハウスがたくさんあったこと、貞山堀の橋は震災の前年に直したばかりだったこと、終戦前までは舟で家まで稲を運んだこと、赤井江の北部あたりに塩場があったことなどを紹介していただきました。

これからも引き続き、みなさんのお話を伺いながら、City Engine で再現した集落の姿を、実際のものに、より近づけていきたいと思えます。集落のもとの姿と貴重な記憶を、後の世代や玉浦を訪れた人びとも伝えられるよう、ぜひ残していきましょう。



写真：City Engine で再現した蒲崎集落



写真：City Engine で再現した相野釜集落



写真：蒲崎集落の町内案内の様子



写真：相野釜集落の町内案内の様子